

2013年度中央図書館利用者懇談会 報告

日時：2014（平成26）年2月8日（土）午後2時～午後4時

会場：中央図書館6階ホール

参加者：利用者4名（男性3名、女性1名）

図書館 尾留川館長、近藤副館長、吉岡担当課長、小林庶務係長、芝崎奉仕係長、和賀井担当係長（ハンディキャップ担当）、海老澤担当係長（レファレンス・地域資料）、鈴木担当係長（児童資料）、下元担当係長（システム）、高松担当係長（忠生準備担当・システム）、今井担当係長（リクエスト）、岸（ハンディキャップ担当）、ハンディキャップ担当嘱託員：河津・原澤

司会：本日は雪の中、中央図書館利用者懇談会にお集まりいただきありがとうございます。今年度は、テーマを障がい者サービスにしぼりまして、意見交換をしたいと思います。

昨年度は、金森図書館で「おはなし会の参加人数の減少について」お話を伺ったのですが、その中でおはなし会のボランティアさん、学校の先生や指導員さんの方に、今の小学生を取り巻く環境の変化などをお話いただいたところ、現在小学生は3時まで学校にいななければならないので、3時からの図書館のおはなし会には、来られないことがわかりました。そこで金森図書館は今年度からおはなし会の時間を、夏の間だけ3時15分から始めることに変えました。その結果参加人数が増えました。利用者懇談会でいただいた意見を図書館運営に反映していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

1. 館長挨拶

まず図書館の概況をお話させていただいて、次に障がい者サービスの説明には行ってきたいと思います。一昨年鶴川駅前図書館が久しぶりに開館し、町田では7館の構成になり、2015年に忠生にもう1館開館予定で、これで8館の構成の予定です。障がい者サービスにつきましては、中央館ではさまざまな障がい者サービスを行なっていますが、地域館については対面朗読が中心になっていまして、視覚障がい者の方から申し出があれば、最寄りの地域館で対面朗読をさせていただいています。ただ、鶴川駅前図書館でも実際には1人か2人の利用という状況になっていて、利用が増えているという状況にはなっていません。

視覚障がい者の方には、他にも外出支援という形で、ボランティアの方につ

いていただいて移動ができるということになってきています。どちらかという
とサービスがしっかりしている中央に来たほうが、さまざまなニーズに応えら
れる中央に来ていらっしゃる方が圧倒的に多いという現状になっています。

今日は、中央図書館の利用者懇談会となっていますが、実際には地域館でのサ
ービスとニーズの部分をお聞かせいただきながら、どちらかと言えば、今日は
こういった天候で、もともと参加する予定だった方もかなりいらっしゃったわ
けですが、今回は参加が難しいということになりまして、少ない人数の中でざ
っくばらんに意見交換できればと思っていますので、よろしくお願いします。

2. 自己紹介（職員・利用者）・・・省略

3. 障がい者サービスの説明（ハンディキャップ担当和賀井担当係長より説明） （配布資料「～障がい者サービスについて～」他参照）

4. 意見交換

利用者：相模原市の対面朗読は、図書館に登録していただいているボランティ
アさんではなく、録音奉仕会というボランティアグループをお願いして対面
朗読を行なっていますが、利用条件として、視覚障害に限られています。識
字障害や学習障害の方の場合、利用いただけていない状態です。町田市の方
では、障がい者サービスの登録の際、障がい者手帳の有無は問わないとい
うことですが、識字障害や学習障害の方に対しての対面朗読のサービスをさ
れているのかどうかをお聞きしたい。

図書館：今現在サービスの登録をしている方の中には、識字障害や学習障害の
方はいらっしゃいません。ただ、対面朗読室を利用する要件には、視覚障が
いとは限っていないので、相談があればサービスの対象にはなるかと思いま
す。

利用者：点訳と音訳には、資格がいるとの話でしたが、詳しく教えていただき
たい。

図書館：町田市ではボランティアセンターで行なっています。

音訳者養成講座は、昨年度の11月から3月までの5ヶ月間、機材の使い
方から始まって日本語の理解たとえば文節の区切りや話すときのスピードな
どの朗読の仕方を勉強して、全16回で講座終了という形です。

点訳者養成講座は、今年度の9月から12月の4ヶ月、全15回で行なわ
れましたが、内容は視覚障がいの方が使用する点字を学びながら、視覚障が
いに対して理解を深め、市内で活躍するボランティアを養成する講座という
ことになっています。

図書館：点訳の場合、先ほどの『幻の女』のように9冊になっていてボリュームがあるので、こちらのほうが大変なように思われますが、実は絵本のように字が少ないもののほうが、自分のセンスで絵の説明を加えなくてはならないので、奥が深くて大変ですが面白いです。小説のほうは、50音を点字の形で覚える必要はありますが、直接打つわけではないので、規則が分かれば、パソコンの点訳ソフトで打てるので、以前よりも点訳しやすくなっています。

『幻の女』は90分テープで15本22時間ぐらいになりますが、点訳であれば何人かで手分けして点訳しても違いはないのですが、音訳の場合は声と同じ人で行なっています。

講座を受けて声の出し方を勉強したとしても、声の調子等を揃える必要があり、疲れから声の質や速さが変わったりしますので大変ですが、利用者からの要望も多いので、講座を受けた方に頑張って録音してもらっています。

図書館：日ごろ宅配をされていて気づいた点などありましたら、お聞かせください。

利用者：2週間に1回だけですが、心の交流があるので続けられるのではないかと思います。相手も気を使ってくれるので、それに応えなければならないと感じます。日常生活はおくれるが、不便な生活を送っている人がいることを実感しています。障がいのある無しにかかわらず、外に出るのが難しい人や宅配を求めている人がまだいるのではないかと思います。

宅配は半年に一度の定期だが、ボランティアがいない地域でも、2ヶ月に1回などある程度分割してつないでいき、需要に応えられるような体制を作っていたらと思います。

(点字資料と点字の読み方一覧表配布)

図書館：お渡しした点字資料に何が書かれているか考えていただき、視覚障がい者の気持ちになってみましょう。

☆ 参加者の名前を書いた点字をアトランダムに渡し、読み方一覧表を見て本人に渡してもらおう。

図書館：自分の名前を点字で書くと、こうなるというのをご家族に見せていただけたらと思います。

☆ 数字の点字を考えて見ましょう。

図書館の中や外で見かける点字や音声ができる案内等いろいろありますので、機会があったら、見てください。音声も一緒にできるエレベータや駅の券売機などで見てみるのもいいかと思います。

利用者：朗読の利用者が12人なのに対して、件数が433件があるのは、1人で年40回ぐらい利用しているということでしょうか。

図書館：だいたい週1回利用されているので、そのぐらいになります。

利用者：毎週楽しみにしているんですね。

図書館：中央の場合は、日中になりますが、火曜日から金曜日までほとんど申し込みがあります。

利用者：相模原は、市販のカセットテープを購入していましたが、DAISYへ移行していかなければならないとなり数年前から対面朗読をお願いしている録音奉仕会の方に、年に数回郷土資料を中心に制作していただいています。始まったばかりで蔵書数は少ないのですが、今後増やしていけたらと思っています。

利用者：点字や大活字本などは図書館にあるので知っていましたが、対面朗読などの奉仕があることが分かりました。実際のニーズと奉仕される方の人数はマッチされているのでしょうか。

図書館：たとえば宅配に関しては、登録している方はたくさんいるのですが、利用者の要望と、ボランティアの希望が合わず、新たに募集することもあります。

利用者：朗読についてはどうでしょうか？

図書館：足りないということはないのですが、「英語ができるかたがいい」というような条件があると、ちょっと厳しいです。登録していただく時に、どんな分野が得意か、英語ができるとか、をお聞きして、要望があったときになるべく対応できるようにしています。

利用者：障がい者サービスからはずれるかもしれませんが、中央図書館にはいい本がいっぱいあるなと思います。新刊でこんな本まで購入しているのかとったりしますが、中央でも購入していない本がありますが、選ぶ基準は、著名な方の本は購入することはイメージできるのですが、あまり有名でない本まで購入していますが、どういう判断で購入しているのか知りたい。

図書館：図書館入門講座でもよく聞かれる質問ですが、町田市立図書館では、選定会議を週1回木曜日に開催して、そこで中央と地域館の選定委員が実際に本を見ながら、購入するかしないか、何冊複本を購入するかの会議を開いています。見計らい本という形で本を持ってきてもらう契約を書店として、1年間に7万から8万ぐらい発行されていて、1日200冊ぐらい出版されています。出版社から取次ぎ（日販）に200冊のうち1

80冊集まってきていて、そのうち1日120冊図書館へ持ってきてもらいます。それを見ながら、まず中央の選定委員で予備選定を行い、中央で購入する資料を決めておきます。木曜日に全館で選定会議を開いて、どこで購入するかで決めます。このほかに大手の出版社以外の部分、地域の小さい出版を扱っている地方小出版から、見計らい本を持ってきてもらい、選定をします。

それでも漏れてしまうものについては、日販速報や新聞の書評、利用者からのリクエスト、新刊で購入しなかったものをそれらで補っています。特にどの分野が少ないと思いますか？

利用者：雑誌も多岐にわたっているし、研究書も多いし、軽めのカルチャーの本もありますね。この分野はとは特には感じたことはないけれども、中央館は、いい本を選定されるような方がいらっしゃる感想を持ちました。

図書館：数学や化学系がちょっと弱いかなとは思っていますが、利用者の方はよく書棚を見ていて、弱い部分を買足ししてみると、より高度な本が読みたいという予約や利用者の声がありました。

予算という限度がありますので、全部を購入するわけにはいきませんが、都立図書館や他市の図書館から相互協力という形で、本を借りたりして提供していく体制に力を入れています。もし、読みたいという本がなかった場合、町田の方でしたら、予約ができますので、ご利用ください。

図書館：障がい者サービスについては、3年に1回の利用者アンケートでも認知度が低いので、認知度を上げたいのでこういう利用者懇談会を開いたのですが、いい案などありましたらお願いします。

利用者：利用する人の声が聞きたいですね。

図書館：対面朗読の方などに声をかけて、実際に利用してみてどうだったか、健全者にはわからないことを今日聞きたかったのですが、雪のため来られない状況になってしまいとても残念です。

利用者：朗読奉仕にチャレンジしてみませんか？と呼びかけたりはしていますか？

図書館：図書館に登録していただける方が初級講座を修了した方ですので、講座を受けていない方には、別の施設をご案内している状況です。

利用者：市のNo.1を決めるような朗読のコンテストなどを開催してみたいかでしょうか？話題性にはなると思います。図書館で障がい者サービスで朗読などをやっていて、役に立っているということを、啓発を兼ねてみるのもいいかもしれませんね

利用者：視覚障がいの方は何人ぐらいいるのでしょうか。

図書館：町田市では、障害福祉課でだしている数字としては、2013年度

手帳の交付数になりますが719人となっています。聴覚は、2013年度
平行機能が996人 音声言語機能113人となっています。

利用者：聴覚と音声は違うものなのですか？

図書館：後天的な場合や訓練で話せるようになった人もいるので、違ってき
ます。

利用者：寝たきりの方の数字は分かるのですか？

図書館：今回のために事前に調べようと思ひまして、介護保険課のほうに問
合わせをしましたが、要介護度については寝たきりだからいくつというわけ
ではないので、総合的に見て介護度を見てるので、たとえば体は健康でも認
知症でずっと人が付いていないとだめな場合は、高くなるし、寝たきりでも
自分で食事ができて飲み込める場合は、また違ってきます。なかなか把握す
るのが難しいです。

利用者：肢体不自由については？

図書館：肢体不自由の交付数は、わかりますが、それと寝たきりがイコールで
はありません。

利用者：肢体不自由で1人暮らしだと基本的には図書館には来れませんね。

図書館：手でも足でも肢体不自由になるので、その数だけでは寝たきりの数は
わかりませんが、手帳交付数は、2013年で6,356人です。

図書館でもPRの方法を考えていまして、障害福祉課とボランティアセン
ターに案内を置いています。

障害福祉課で手帳交付や生活用具の相談したときに案内してもらったり、
ボランティアセンターでボランティアさんの目にとまれば、ボランティアさ
んのほうから紹介してもらえるかなと考えています。

図書館：手帳を持っていても、車椅子であれば自力で動ける人は、障がい者サ
ービス登録ではなく、一般で登録している方もいます。視覚障がいの方でも、
一般登録でCDを借りに来ている方もいらっしゃいます。

図書館：肢体不自由でも、8割以上の方は何らかの形で、自分で図書館にアク
セスできます。障がい者サービスを受けたい方は、そのなかでも限られるの
です。障がいと一言で言っても、特に身体障がいの場合は、目に見えない障
がいを含めるとかなりあるので、典型的な一般的に思われているイメージと
随分違います。

利用者：知的障がいということですか？

図書館：肢体不自由だけでなく、内臓機能であったり、さまざまな障がいを持
っている方もいます。

介護保険制度になってから、「寝たきり」という表現がなくなってきている
ので、以前は、体が動くか動かないか、ベッドから起き上がれるか起き上が

れないかだったのが、自立した生活が送れるかどうかによって変わってきているので、ちょっと違ってきています。

利用者：介護のヘルパーがいれば何とかなる、できるという方が多いかもしれませんがね。青葉区は老人ホームが多く日本で老人の割合が2番目に多い、町田も多いかと思われそうですので、そういう所とつながりを持って、サービスを広げていったらいいのではないのでしょうか。サービスを知らない人がほとんどだと思われそうです。どんどん広げていけば、需要も増えていくかと思えます。

図書館：移動図書館車のサービスのポイントで、高齢者施設が増えてきています。高齢者施設の職員が替わりに本を選んで、施設に届けたり、高齢者の方がそのときだけ玄関先に出てきてもらったりして、だいぶ増えてきています。体は動くけどなかなか施設から出ることが難しい状況が増えてきています。

利用者：移動図書館車を利用したこともありますが、こども向けが多いように感じました。

図書館：車の外側は、大人向けの本になっていて、大活字本も人気があるので、それを載せて回っているという状況です。

利用者：大活字本は作るの難しいのでは？

図書館：大活字本は、販売されています。

利用者：高くないですか？

図書館：高いです。個人で買うとなると、なかなか大変なので図書館でなるべく買って、提供しています。

利用者：人の問題もあるかと思いますが、増えたほうが役に立つと思います。一緒に朗読奉仕の人が乗って行って、出張朗読会を開くなりしたら、喜んでもらえるのではないのでしょうか。出張で点字のサービスをするとか。

図書館：図書館ではないのですが、町田のボランティアグループの方たちが、老人ホームを回ったりしています。

図書館：2年前初めてヴィラ町田という施設に行ったとき、利用者の人が待っていてくれて、うれしそうに借りていってくれました。

利用者：そういう方が潜在的にいっぱいいるので、それをどう掘り起こすかということだと思います。

図書館：元気なときから図書館を利用されていて、行けなくなってあきらめていたのですが、宅配サービスを知って、また本を読めるようになった方もいらっしゃると思います。最初から本を読むのをあきらめていて登録をしていなかった方が、宅配サービスを受けられることにより登録された方もいます。

利用者：本に親しんでいなかった方は、サービスがあること自体知らないかも知れません。本で世界が広がったりしますので、教えてあげて欲しいし、広

げて欲しいです。

図書館：相模原市のサービスと町田のサービスでは、違うところはないですか？

利用者：相模原市のほうは特殊で、録音図書や点字図書の制作などは、保健と福祉のライブラリーという保健所の機関のほうで別の図書室を持っていて、そちらが中心になって行なっていて、図書館のほうの障がい者サービスについては手薄になっている状態です。内容は、対面朗読のほかに、宅配サービスを行なっていますが、地区限定になっていて、市立図書館のある地区の社会福祉協議会と提携して、図書館の周辺の地域だけで宅配サービスを行なっています。

団体貸出という形で、市内のデイケアサービスの施設に登録していただいて、2ヶ月に1回100冊まで貸出してを行なっています。老人ホームから依頼があれば出向いて紙芝居などの読み聞かせを行なっています。はっきりした障がい者サービスではないのですが、柔軟に対応しています。

図書館：社会福祉協議会と連携という形でしたが、ボランティアさんに行ってもらっているのでしょうか。

利用者：社会福祉協議会から登録ボランティアさんを紹介してもらい、図書館のほうで登録してもらいます。

図書館：宅配は月1回なのですか

利用者：相模原は、宅配については月1回という形になってしまっていて、できれば一般の方と同じにしたいのですが、ボランティアさんのほうも高齢化が進んでいるという事情がありますので、月1回になっています。

図書館：貴重なご意見ありがとうございました。お時間になりましたので、利用者懇談会は終了させていただいていただきます。本日はありがとうございました。

5. 施設見学（希望者）